

営農だより

金沢営農協議会
J A 金沢市
石川県農業共済組合

6月のポイント ～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 中干しは、田植え1か月後から実施 ○中干し期間は、コシヒカリで約1か月間
- 畦畔・農道等の除草は5～6月にかけて実施し、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟に対応した施肥体系

今後の水管理

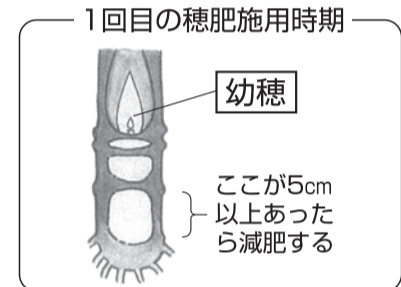
ゆめみづほ（早生品種）は、稲が最も水分を必要とする穂肥時期（幼穂形成期）～出穂後3週間になるので、常に土壤水分を保つように（飽水管理）、こまめに通水する。通水は可能な限り、夜間に行い、根の活力低下を防ぐとともに乳白粒発生防止に努める。

コシヒカリ（中生品種）は中干しを7月5日頃まで、ひやくまん穀（晩生品種）は7月10日頃まで継続する。中干しを実施していない圃場は、軽く田干しを行ったのち、中干しを実施する。

ゆめみづほの穂肥施用

ポイント

- ① 1回目の穂肥は出穂23日前に適量施用する。
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：1～2ミリ 葉色：4.0～4.2（葉色板）
- ② 施用時期は幼穂を確認して1回目を規定量、遅れないように注意する。
- ③ 2回目の穂肥は遅くとも出穂の1週間前までに施用する。



出穂予想日 ゆめみづほ・・・7月17日頃

（山間地域や圃場、田植日によって出穂予想日は前後します。）

【穂肥施用時期の目安と施用量】（10a当たり）

区分 品 種	肥 料 名	1 回 目			2 回 目		
		施用時期	地力別	施用量	施用時期	地力別	施用量
ゆめみづほ	BB有機入追肥 526号(15-2-6)	乾 田		20kg	7月7日頃	乾 田	25kg
		湿 田		15kg		湿 田	25kg
	BB有機入よしみ (東部・医王ライス センター必須)	乾 田		25kg	7月7日頃	乾 田	25～30kg
		湿 田		25kg		湿 田	25kg
	BB有機入り いしかわ穂肥一発055 (穂肥一発肥料)	乾 田		32～36kg	—		—
		湿 田		32kg			

- ・市街地では上記の2～3日前を、山間地は上記の2日後を施用の目安にする。
- ・乳白粒等の発生しやすい圃場で、生育が劣る場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
- ・登熟期間の高温が予想される場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。

◆ コシヒカリの穂肥施用時期は次回の営農だより第5号でお知らせします。

**J A金沢市のホームページにも営農だよりを掲載しております。
「J A金沢市」で検索して下さい。**

◇裏もあります◇

中干し後は、止め水せずに、こまめに通水を！

営農テレホンサービス実施中（電話237-1117）

早生品種の病害虫防除

「ゆめみづほ」は茎数が多く、紋枯病にかかりやすい品種です。常発田では適期に防除して下さい。

◆紋枯病常発田◆ 紋枯病が毎年発生する圃場では、予防剤による防除が重要です。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
リンバー粒剤	7月3～6日頃 (出穂前14～11日、収穫30日前まで)	紋枯病	3kg/10a

- ・イモチエースクラップ粒剤を散布する圃場は、リンバー粒剤を散布する必要はありません。
- ・紋枯病の発生がみられた場合は、モンセレン粉剤DLを4kg/10aを散布して下さい。

◆稲こうじ病◆ 過去に稲こうじ病の発生した圃場は発生翌年度から3年間継続して散布して下さい。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
Zボルドー粉剤DL	6月27日～7月7日頃 (出穂前20～10日)	稲こうじ病	4kg/10a
モンガリット1キロ粒剤	7月3日頃 (出穂14日前、収穫45日前まで)	紋枯病、 稲こうじ病	1kg/10a

注意1：Zボルドー粉剤DLは、薬害防止のため出穂10日前までに散布する。
散布後7日間は落水かけ流しをしない。

注意2：モンガリット1キロ粒剤を散布した圃場は散布後45日間は、刈取りが出来ませんので、刈取日に注意して下さい。

◆イナゴ◆ 昨年イナゴが発生した圃場は注意を払い、イナゴを確認したら早急に防除しましょう。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
トレボン粉剤DL	6月～7月(収穫7日前まで)	イナゴ類、フタオビコヤガ、 カメムシ類など	3～4kg/10a

◆早生品種の1回目の基幹防除(出穂前)

〈粉剤体系〉

薬剤名	①ビームトレモンセレン粉剤DL
防除時期	7月10～14日頃 (出穂前7～3日) (収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病・穂枯れ カメムシ・ウンカ イネツトムシ・コブノメイガ ツマグロヨコバイ
散布量	4kg/10a

〈微粒剤体系〉(専用ホースが必要です)

薬剤名	①サジェスト微粒剤F
防除時期	7月10～14日頃 (出穂前7～3日) (収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病 カメムシ類・ウンカ ツマグロヨコバイ
散布量	3kg/10a

〈粒剤体系〉

薬剤名	①イモチエースクラップ粒剤
防除時期	7月3～7日頃 (出穂前14～10日) (収穫35日前まで) *使用回数は1回
対象病害虫	紋枯病・いもち病・穂枯れ カメムシ・ウンカ 墨黒穂病・変色米
散布量	3kg/10a

(2回目以降の防除については、次回の営農だより第5号に掲載します)

- ◆暖冬の影響でカメムシ類の発生が例年に比べて増加することが予想されます。
カメムシの生息密度を下げるため、こまめに畦畔や雑種地の除草をしましょう。
- ◆カメムシ被害の多い市街地などで、粉剤散布ができない圃場では、粒剤体系または微粒剤体系で防除を行って下さい。
- ◆斑点米防止には、地域での一斉防除(ラジヘリ、集落一斉防除など)が有効です。
地域、集落ごとに協力して斑点米の発生を防ぎ、きれいな金沢産米をつくりましょう。

本田後期除草剤について

使用時期(収穫前日数)は必ず確認して下さい。

適用雑草	薬剤名	使用時期	使用量/10a	注意事項
ノビエ	トドメMF乳剤	移植後14日～ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)	薬量200ml 希釈水量100L	落水状態で散布 本剤の使用は2回以内
	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)	薬量100ml 希釈水量100L	落水状態で散布 効果を高めるため展着剤を加用する 本剤の使用は2回以内
広葉雑草	バサグラン液剤	移植後15～55日 (収穫50日前まで)	薬量500ml 希釈水量100L	落水状態で散布。展着剤の必要なし 本剤の使用は2回以内
ノビエと広葉雑草	クリンチャーバス ME液剤	移植後15～ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	薬量1,000ml 希釈水量100L	落水状態で散布。展着剤の必要なし 本剤の使用は2回以内

◎金沢管内の生育調査結果(5月28日調査)

- ・草丈は、ゆめみづほ・コシヒカリで平年並、ひやくまん穀で平年より短い。
- ・茎数は、ゆめみづほ・コシヒカリで平年よりやや多く、ひやくまん穀で平年より少ない。
- ・生育は、ゆめみづほで平年並、コシヒカリで平年より1日程度遅くなっており、ひやくまん穀は前年並である。

◎病害虫発生予報(5月21日発表)

- ・カメムシの発生量は、やや多くなると予想されている。

※農道や畦畔の除草は7月上旬までに実施しましょう。

※農薬は、飛散防止に気を付けて散布しましょう。

栽培履歴を記載しましょう！